

## チーズ箱の試作

太田圭一・河崎弥生・金田利之・中村睦男

### 1. はじめに

近年、消費者の購買意識には高級志向が強く、特に贈答品においては、この傾向が著しいといわれている。一般に、商品の高級感は製品や産物それ自体の品質に負うところが大きいが、包装・容器の与える影響も無視できないとされる。品質向上のため、付加価値を付与する努力が払われているが、農産物のような一次産品では努力にも限度がある。一方、包装・容器については現在、ほとんど紙製で占められている。しかし、木製容器のもつ材質感は捨て難いものがある。

このような状況を考慮し、県北蒜山地区で生産され贈答用に需要の多い乳製品、特にチーズの販売促進の一助として、木製チーズ容器を試作し、生産コストの試算を行った。

### 2. 方法

- 1) 材 料： 製品の化粧性を考慮して、ヒノキ材を使用した。
- 2) 加 工： ヒノキ原木は、厚さ2mm、幅10mm、長さ1mの単板にスライス加工した。
- 3) 組立て： 直方体の容器3種類と円形の容器1種類を試作した。これらのサイズを第1表に示す。なお、表中の表面積は、作成に必要とする単板の量を意味する。

### 3. 結果と考察

#### ①仕上がりどコスト

試作品の仕上がり写真を写真1に示す。

試作に要した費用を算出し、第2表にまとめて示す。実際には、量産によるコストの低減が期待される。

#### ②製作上の問題

紙製容器よりも高級な感じを強調するためには、化粧性（木目、材色、節・割れ・腐れなどの欠点の有無）と、重量感などを考慮した木材の使用が望ましい。この点で、ロータリー単板は好ましくない。

使用する板も適度な厚さが必要である。あまり薄い板は加工しにくく、木材の材質感にも欠ける恐れが大きい。

さらに、今回のような食品用の容器の場合には、木材固有の香りの影響を無視することはできない。

第1表 チーズ箱のサイズ

試作した 箱の種類	辺の長さ(cm)			体積 (cm <sup>3</sup> )	表面積 (cm <sup>2</sup> )
	長さ	幅	高さ		
1	30.0	10.5	4.5	1417.5	994.5
2	21.5	10.2	5.0	1096.5	755.6
3	11.2	10.2	4.3	491.2	412.5
4		9.7 <sup>*1</sup>	4.0	295.4	269.6

\*1 直径を表す

第2表 チーズ箱製造原価の算定<sup>4</sup>

(単位：円)

試作した 箱の種類	材料費 <sup>1</sup>	材 料 <sup>2</sup> 加工費	賃金 <sup>3</sup>	合計
1	100	20	100	220
2	70	15	100	185
3	35	10	100	145
4	30	10	100	140

- \*1 厚さ 2mmのスライスド単板を製造するためのヒノキ原木代を50万円/m<sup>3</sup> (1千円/m<sup>2</sup>)とする。
- \*2 幅10cm, 長さ1mの板にスライス加工するための費用を40円/枚とする。
- \*3 製造できる個数を1人で100個/日とし、賃金は1万円/日とする。
- \*4 この算定には、接着剤、表面のシール等の諸経費を含まない。



写真1 試作品の外観